

## V582Aur アウトバーストにみられる FUor 型的特徴 ~ 木曾観測所写真乾板アーカイブス研究

P146c

三戸洋之 (東京大学), E. H. Semkov, S. P. Peneva (Bulgarian Academy of Sciences), U. Munari (INAF Osservatorio Astronomico di Padova, Sede di Asiago), M. Dennefeld (Institut d'Astrophysique de Paris/CNRS/Université Pierre et Marie Curie), D. P. Dimitrov, S. Ibryamov, and K. A. Stoyanov (Bulgarian Academy of Sciences)

FUor 天体は小質量の前主系列星の一種と考えられているものの、これまでに 10 天体ほどしか見つかっていない。そのため、系統的な研究を進めるためには、新たな天体の発見が重要である。V582Aur は、2009 年に FUor 候補天体として発見された。これまで、可視の測光分光観測、中間赤外の測光観測などによる研究が進められてきたが、FUor 天体と決定するだけの証拠は得られていなかった。そこで、われわれは新たに、1954 年から 1997 年の間の、木曾観測所を含む各国の天文台で撮られた写真乾板のデータの調査と、2009 年から開始した CCD 測光分光観測をおこない、研究を進めた。

写真乾板と CCD による測光観測の結果、アウトバーストが起きたと考えられる 1984 年から 1986 年の前後で、明るさが  $V \sim 3.6\text{mag}$ . 増光していることがわかった。アウトバースト後の明るさは、現在まで約 30 年間、長く継続している。一方で、最近 3 年半の観測では、 $R \sim 2.8\text{mag}$ . ほどの非常に速く強い変光が確認された。分光観測からは、バルマー系列や、NaI $\delta$ 、BaII の吸収線と、それらの PCyg 形状が確認された。また、アウトバースト後のスペクトルは、G0I 型と類似していることがわかった。これらの結果は、これまでに発見された FUor 天体の特徴と一致する。以上より、われわれは、V582Aur が FUor 天体であると判断した。